

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	就職対策講座Ⅰ	
担当教員の実務経験	金融機関での採用人事担当経験	
対象学生	社会福祉学科4年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース4年	
授業時間数・単位数	45コマ	3 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [ ○ ]	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として必要となるビジネスマナーの基礎を学ぶ</li> <li>・就職活動に必要な書類の準備、書き方・面接の指導を行う</li> </ul>	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、実習、模擬面接を通して今後の就職活動に生かしていくことができる</li> <li>・希望就職先の内定</li> </ul>	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
身だしなみ、あいさつ、敬語		3
電話応対、聞く力		3
社会人としての心構え		3
自己分析の仕方、自己PRの仕方		3
就職活動の進め方		3
志望動機		3
履歴書の書き方		4
対人不安の克服の仕方		3
社会人に必要な法律知識		2
面接に向けての配慮事項		1
～模擬面接～		4
面接指導		3
合計		45
授業単位数		3

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	社会福祉運営管理論	
担当教員の実務経験	社会福祉法人事務局長	
対象学生	社会福祉学科4年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース4年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	<p>少子高齢社会の到来により、福祉サービスの新たなニーズが増加し、わが国の社会福祉制度を根幹から改革しなければならない時代が到来した。規制緩和によるさまざまな主体の参入に連携と競争が生まれたことにより、経営の必要性が増大した。</p> <p>このことから、福祉サービスにおける組織と経営管理について、社会福祉法人や特定非営利活動法人などの組織や団体の活動内容、経営の基礎的な概念・戦略などを学修する。また、福祉サービスの視点からの管理運営(人事・労務・財務・情報管理等)の方法を学修する。</p>	
授業の到達目標	福祉サービスにおける組織および経営管理について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座11 福祉サービスの組織と経営』中央法規	
授業上の注意点		
	<b>授業計画（内容）</b>	<b>コマ数</b>
	福祉サービスにおける組織と経営(テキスト第1章第1節) 福祉サービスとは、福祉サービス事業主体とサービス提供組織、福祉サービスの経営管理について	1
	福祉サービスにおける組織と経営(テキスト第1章第2節) 社会市場における経営、社会市場における経営環境、福祉サービス提供主体が求められている経営の倫理について	1
	福祉サービスにかかわる組織や団体(テキスト第2章第1節～第2節) 法人とは何か、法人の基本形態と統治の機関、社会福祉法人の基本的性格、社会福祉法人の設立と機関について	1
	福祉サービスにかかわる組織や団体(テキスト第2章第3節～第4節) 特定非営利活動法人の概要及び管理運営の基本、医療法人、営利法人、公益法人等について	1
	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(テキスト第3章第1節～第2節) 戦略の基礎概念、経営戦略の策定プロセス、事業計画の策定と実行・評価、事業計画策定のヒントについて	1
	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(テキスト第3章第3節～第4節) 組織と福祉サービス、組織構造と組織原則、組織形態、及び管理運営の基礎理論について	1
	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(テキスト第3章第5節～第6節) 集団の力学に関する基礎理論、リーダーシップに関する基礎理論について	1
	福祉サービスの管理運営の方法① サービス管理(テキスト第4章第1節～第2節) サービスマネジメント、サービスの質の評価について	1
	福祉サービスの管理運営の方法① サービス管理(テキスト第4章第3節～第4節) 苦情対応とリスクマネジメント、サービス提供のあり方の方向性について	1
	福祉サービスの管理運営の方法② 人事管理と労務管理(テキスト第5章第1節) 福祉サービスにおける人事・労務管理、人材確保と採用、配置と異動、人材の評価、労務管理・労使関係管理について	1
	福祉サービスの管理運営の方法② 人事管理と労務管理(テキスト第5章第2節) 人材育成の意義と必要性、経営管理と人材育成について	1
	福祉サービスの管理運営の方法③ 会計管理と財務管理(テキスト第6章) 社会福祉法人の経営と財務管理、社会福祉法人における資金の流れ、社会福祉法人の財務管理の目的について	1

福祉サービスの管理運営の方法③ 会計管理と財務管理(テキスト第6章) 社会福祉法人における会計制度、社会福祉法人の財務諸表の見方・使い方について	1
福祉サービスの管理運営の方法④ 情報管理と戦略的広報(テキスト第7章) 事業経営に必要な情報管理、事業経営における情報の活用について	1
福祉サービスの管理運営の方法④ 情報管理と戦略的広報(テキスト第7章) 経営における情報戦略、個人情報保護と情報開示、介護サービス情報の好評制度、福祉サービスの第三者評価制度について	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	福祉倫理	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科4年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース4年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	<p>福祉倫理は、福祉従事者としての人間観、福祉観などの価値観に深く関わり、福祉の現場で働いて、その個人の判断や行動を規定するいわば「物差し」となるため、極めて重要である。例えば、福祉従事者は、すべての利用者を見做しに扱い、主体的存在として個別に理解し、その人格の尊厳性を尊重しなければならない。このような人間観・福祉観をしっかりと身につけるためには、国連の「世界人権宣言」や、日本国憲法や福祉六法をはじめとする法律の精神や基本理念を正確に理解する必要がある。</p> <p>本科目では、今日までの代表的な福祉倫理思想を概観しながら、それを手かかりとして、現代の福祉現場における倫理的諸問題を検討し、福祉従事者としての倫理観を養う。</p>	
授業の到達目標	福祉従事者としての倫理観への理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	阿部志郎『福祉の哲学』誠信書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
福祉の哲学とは 福祉とはヒューマンサービスである。そのため、サービス提供者としての福祉従事者は、求められる人間観、福祉観を明確にしておく必要がある。福祉の哲学とは、福祉とは何か、福祉とは何を目的とするか、人間の生きる意味とは何か、福祉の果たす役割とは何かを考え、理解し、ニーズへの解決を追求していくことである。それが福祉の哲学であることを学ぶ。	1	
現代社会の病理 便利な現代社会であるがゆえに発生する「文明病」とは何か、豊かな開発国に共通する現代病はなぜ発生するのか、豊かさ引き換えに生まれる「孤独」とは何か、などを考える。そして、「物の豊かさ」と「心の貧しさ」を開発国、途上国の現状の中から分析し、人間にとって真に必要なものは何かを探求する。	1	
倫理とは何か 倫理とは人として守るべきものである。その基本にあるものは「人権擁護」である。人権を擁護する立場にある福祉サービス提供者たちの「倫理」には、共通した視点が求められる。それが何かを明確にすることによって、福祉の目標が見えてくることを学び、「倫理」の心に触れる。	1	
ボランティアの歴史 ボランティアの起源は1647年のイギリスにおける「義勇兵」であり、COS(事前組織活動)やセツメント運動へと発展する。しかし、ボランティアという言葉がわが国で注目され始めたのは戦後であり、しかも1970年以降であった。ここでは欧米のボランティアの歴史と、「奉仕」や「篤志家の活動」とらえられたわが国のボランティアの歴史から、福祉への考え方を学ぶ。	1	
ボランティア活動の基本的役割 ボランティアの基本的な性格と役割とは何かを考える。特にわが国には、戦後の社会福祉の発展の中で、ボランティアが担ってきた5つの役割がある。そこから見えてくる性格を分析していくことは即ちわが国におけるボランティアの歴史を知ることでもある。また、NPOやNPO法の登場から期待される新たな役割についても考察する。	1	
諸外国におけるボランティア活動とわが国 基本的にはアメリカのボランティアとわが国のボランティアを比較する。日本とアメリカのボランティアの考えの違いや具体的な取り組みの違いを、文化的違い、例えば宗教や生活習慣の違いなども含めて学び、今後のわが国の福祉へのあり方や方向性はどうかを考えていく。	1	
ボランティア活動と倫理観 福祉の専門職者ではないボランティアの立場からの倫理観を学ぶ。理論だけではなく現場における活動の中での「しなければならないこと」「してはならないこと」の基本が人権尊重であることを学び、人権擁護の立場からの人間観・福祉観を身につけることの重要性を明らかにする。	1	
ボランティアの基本的性格 ボランティアの基本的な4つの性格、自発性・公共性・継続性・無償性は、現代社会の中でどのように変化しているかを考える。特にボランティア活動が身近な地域社会から世界的な活動へと広がるを持つようになってきた中で、発生する継続性・無償性への課題とその解決策を探り、今後の方向性を考察する。	1	

<p>地域社会と地域福祉</p> <p>地域社会はどのように変わってきたのか、かつての地域の相互扶助のシステムから戦後における高度経済成長の中、核家族化・高齢化・少子化が進んだことよって、「地域福祉」の概念がどう変わってきたかを学ぶ。また、現代社会の中での家族の在り方や、地域における支え合いは今後どうなっていくかを考える。</p>	1
<p>コミュニティにおける孤独と参加</p> <p>町ぐるみの地域活動の進め方を考える。特に自分たちが居住する地域での具体的な取り組みを調べ、他地域との比較をするなど、あるべきコミュニティ活動の姿を把握する。また、孤独死の問題などを考え、地域社会への参加を促すための対策や効果などを考察する。</p>	1
<p>在宅サービスと住民活動</p> <p>わが国の福祉政策としてどのような在宅サービスがあるかを、主に高齢者、障害者、児童、貧困に分けて調べる。さらにそれらに基づき具体的なサービスの取り組みと、補完としてどのようなものがあるかを、住民運動などを中心にまとめ、そこから見えてくる課題などを考える。</p>	1
<p>地域福祉の具体例</p> <p>上記の福祉分野に関して具体的な事例を選び、適切な分析を行う。特に成功例だけでなく失敗例からも、どのような支援が真に望ましいのかを学ぶことが重要である。ヒューマンサービスは一人ひとりの求めるものが違うことを忘れず、声なきニーズを掘り起こし、真の支援にたどり着くことの意義を考える。</p>	1
<p>地域福祉のネットワーク化</p> <p>地域福祉とは総合福祉である。すべての人を対象とし、一人ひとりのより良い生活を求めていくものである。その意味で、医療と福祉の連携はもとより、様々な分野との共生としてネットワーク化を図り、総合福祉を目指していく必要があることを理解する。</p>	1
<p>基本的人権と社会参加</p> <p>総合福祉を具現化していくということは、基本的人権を守りながら、どのような立場・状況にあっても、人として守られ、共存・共生していくことであり、ノーマライゼーションの浸透した社会を築いていくことである。そのため、人はいかに社会の中で孤立することなく社会参加できるかを、考えていくことが重要である。</p>	1
<p>豊かな社会とは</p> <p>真の豊かさとは何か、お金や物があれば幸せなのか、飽食の社会が失ったものは何かなどを考える。近代社会と言われ豊かな物資や食料の中で育ちながらも、孤独な社会であるとはどういうことなのかという豊かさの意味を問い直し、真に豊かな社会の在り方を追求する。</p>	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	更生保護	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科4年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース4年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	<p>犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び非行を起こさせないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉でいう自立支援が必要である。これらの支援は、警察、検察、裁判、矯正の各段階で行われているが、本科目では、この内の社会の中での働きか（処遇）を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、精神障害等の状態で重大な他害行為を行った 人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度の概要、さらには、更生保護制度の実際と今後の展望について学修する。</p>	
授業の到達目標	更生保護制度の概要および関係機関との連携について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座20 更生保護制度』中央法規出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
更生保護制度の概要Ⅰ（更生保護とは、刑事司法の中の更生保護） 古代バビロン王朝のハムムラビ法典にある外法の法則から刑罰と犯罪者処遇の歴史を説き起こし、近代法の成立と人道主義、科学主義の発達により可能となった犯罪者の改善更生と再犯防止、そして彼らの社会復帰を目的とし、現在、刑事司法システムの最終部分を担当する更生保護制度の歴史的意義について学ぶ。	1	
更生保護制度の概要Ⅱ 仮釈放等（仮釈放の意義、種類、機関、手続き、運用の実態） 仮釈放の意義及び仮釈放の種類、すなわち①懲役又は禁錮の受刑者に対する仮釈放、②拘留受刑者又は労役場留置者に対する仮出場、③少年院在院者に対する仮退院、④婦人補導院在院者に対する仮退院について理解するとともに、それぞれの仮釈放の許可基準や仮釈放の許可を決定する権限を有する機関である地方更生保護委員会の役割機能等について学ぶ。	1	
更生保護制度の概要Ⅲ 保護観察概論（保護観察の目的、種類と期間、保護観察の方法） わが国における保護観察は、保護観察対象者の再犯防止と改善更生をともに図ることを目的とするが、その目的を達成するため指導監督と補導援護という二つの方法が有機的、効果的に組み合わせられて実施される。ここでは、保護観察の方法、保護観察の種類と期間、遵守事項、生活行動指針、応急の救護、保護者に対する措置、出頭の命令、引致・留置、良好・不良措置など保護観察制度の概要について学ぶ。	1	
更生保護制度の概要Ⅳ 保護観察各論（保護観察における協働態勢、保護観察ケースワーク、各種処遇施） 保護観察官と保護司の役割、両者の間の協働態勢、保護観察ケースワーク、すなわち、調査と診断（見立て、アセスメント）、保護観察におけるダブルロール、保護観察処遇における社会資源ネットワークについて学ぶ他、類型別処遇、段階別処遇、直接処遇等各種の処遇施策、及び性犯罪者処遇プログラム、覚せい剤事犯者処遇プログラム、暴力防止プログラム等の専門的処遇プログラム、あるいは長期刑仮釈放者処遇などその他の処遇施策について学ぶ。	1	
更生保護制度の概要Ⅴ 生活環境の調整、更生緊急保護、就労支援 矯正施設収容中の者に対する生活環境の調整、保護観察付執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整など各種の生活環境の調整について理解する他、更生緊急保護について、その意義、対象者、実施の期間、実施機関、実施原則、保護の具体的内容、実施の手続等について学ぶ。また、就労支援施策についても、民間人による就労支援、自立更生促進センター、協力雇用主、公的就労支援策等について学ぶ。	1	
更生保護制度の概要Ⅵ 更生保護における犯罪被害者施策 更生保護における被害者支援施策を実施するため、全国保護観察所において指名されている「被害者担当官」及び「被害者担当保護司」について、また具体的制度として実施されている、①仮釈放等審理における意見等聴取制度 ②保護観察対象者に対する被害者等の心情伝達制度③更生保護における被害者等通知制度（加害者の処遇状況等に関する通知）④犯罪被害者等に対する相談・支援制度等について学ぶ。	1	

更生保護制度の概要Ⅶ 恩赦、犯罪予防活動 恩赦の意義及び歴史について理解する他、恩赦の本質、恩赦の機能、政令恩赦と個別恩赦による恩赦の実施方法、個別恩赦の手続き、大赦・特赦・減刑・刑の執行の免除・復権といった恩赦の種類について学ぶ。さらに、犯罪予防活動について、その意義や、世論の啓発、社会環境の改善、地域住民の活動の促進、社会を明るくする運動といった犯罪予防活動の実際について学ぶ。	1
更生保護制度の担い手Ⅰ 保護観察官・保護司 保護観察官の身分や位置づけ、その役割と保護観察官にふるための採用手続等について理解する他、保護観察の実施、生活環境調整の実施、委員会保護観察官の調査の実施等、保護観察官の業務内容について理解する。また、保護司についても、その使命と資格、保護司の身分、保護司の職務、保護区及び保護司組織、保護司の現況について学ぶ。	1
更生保護制度の担い手Ⅱ 更生保護施設(社会福祉士の役割) 民間協力者 更生保護施設について、更生保護施設の被保護者、更生保護施設における処遇、更生保護施設職員の実務・処遇活動等といった側面から理解する。また民間協力者であるBBS会や更生保護女性会、協力雇用主についてもその現状等について学ぶ。	1
更生保護制度における関係機関・団体との連携Ⅰ 裁判所、検察庁とのかかわり 家庭裁判所及び地方裁判所との連携内容として、情報の共有、処遇の一貫性と継続性の保持、保護観察処遇の枠組みを決める際及び処遇の転換に当たって司法判断を求めると等について理解する。また、地方検察庁については、特に、生活困窮者や生活に困難を抱える者等の再犯防止に関する更生緊急保護をめぐる連携、及び刑執行猶予の取消し申し出手続きをめぐる連携等について学ぶ。	1
更生保護制度における関係機関・団体との連携Ⅱ 矯正施設、公共職業安定所・福祉事務所とのかかわり 矯正施設との連携については、少年院に収容されている少年の生活環境の調整、収容されている少年の仮退院審理、仮退院した少年に対する処遇の一貫性、継続性の確保、刑事施設については、受刑者の生活環境の調整、受刑者の仮釈放審理、仮釈放された者に対する処遇の一貫性と継続性の保持等について理解する。また、公共職業安定所及び福祉事務所との連携については、「刑務所出所者等総合的就労支援対策」の実施や、生活保護をめぐる問題、高齢者または障がいを抱える者を中心とした刑務所出所者を対象とする「刑務所出所者地域生活定着支援のための事業」等について学ぶ。	1
医療観察制度の概要Ⅰ 医療観察法に基づく処遇制度の創設、生活環境の調査、生活環境の調整 心神喪失または心神耗弱の状態、殺人、放火、強盗、強姦、強制わいせつ及び傷害等の重大な他害行為を行った人たちの社会復帰の促進を目的とする「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」に基づき、司法精神医療制度としてのいわゆる医療観察制度について、「生活環境の調査」「生活環境の調整」「精神保健観察」「ケア会議」の開催と「処遇の実施計画」の作成等の側面から学ぶ。	1
医療観察制度の概要Ⅱ 地域社会における処遇(精神保健観察) 関係機関との連携、社会復帰調整官の業務の実際 指定通院医療機関において、「通院処遇ガイドライン」に沿って、専門的な医療を受け、また、本人に対して、社会復帰 調整官による精神保健観察、都道府県・市町村等による必要な精神保健福祉サービス等の援助も行われる地域社会における処遇(精神保健観察)の運用の実際について学ぶ。	1
更生保護制度の運用の実際と今後の展望Ⅰ 保護観察官の業務の実際【保護観察の実実施計画の作成等】 保護観察官の役割として実施される、保護観察開始当初の対象者との面接による協働態勢下の保護観察への導入、保護観察処遇に関する調査・診断、「保護観察事件調査票」の作成、「保護観察の実実施計画」の作成、危機場面の調整・介入・措置、有権的措置(良好・不良措置等)、担当者(保護司)に対するスーパービジョン、集団処遇・カンセリング、家族ケースワーク・SST、社会参加活動の実施、認知行動療法等に基づく専門的処遇の実施等について学ぶ。	1
更生保護制度の運用の実際と今後の展望 現行の更生保護制度の課題として指摘された「国民・地域社会の理解の拡大」「実効性の高い官民協働」「保護観察の充実強化」の3点に関するそれぞれの改善方策について理解する。具体的には、例えば、保護観察充実方策、とりわけ性犯罪者処遇プログラムや覚せい剤事犯罪者処遇プログラム等の専門的処遇プログラム、またその根拠理論となっている認知行動療法における「ラプス・プレベンション(再発予防)」につき理解する。また、当面する政策課題としての、専門的処遇プログラムの更なる導入、特別遵守事項の類型に社会貢献活動を加える制度整備、刑の一部執行猶予制度の導入などについても学ぶ。	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	教育相談（カウンセリングを含む）	
担当教員の実務経験	臨床心理士として精神科病院等で実務経験有	
対象学生	社会福祉学科4年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース4年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	<p>教育相談は、現在の学校教育のすべての活動のなかで幅広く実践されており、教師にとって不可欠な資質である。そこで、学校における教育相談とは何か、生徒指導上の有効性、学級経営上の有効性などを理論、技法・態度などの体験を通しながら学修していく。内容は、来談者中心カウンセリング、行動カウンセリング、グループカウンセリング等の理論、技術を、講義やロールプレイ(役割演技)を実施しながら、一人ひとりが確実に体得するよう進めていく。</p>	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	石川正一郎、他『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
教育相談の定義(教科書pp.2-11)		1
ポイント:教育相談の歴史を踏まえ、教育相談の意義と役割について理解する。		
教育相談の実際(教科書pp.176-196)		1
ポイント:カウンセラーではなく、教師だからこそできる相談の長所・短所を理解する。		
開発的カウンセリング(教科書pp.23-31、参考文献「教職科目要説中等教育編」p.76 心理劇について)		1
ポイント:問題が起こってから対応するのではなく、問題の予防や児童生徒がよりよく生きるためのカウンセリングについて理解するとともにクラスや小集団で行われるグループワーク(心理劇等)についても理解する。		
来談者中心療法(教科書pp.13-22)		1
ポイント:教育相談の基本となる態度およびカウンセリング・マインドについて理解する。		
精神分析(教科書pp.32-36)		1
ポイント:教育相談に役立つ精神分析を基本とする心理療法の知恵を理解する。		
行動療法・認知行動療法(教科書pp.36-40)		1
ポイント:教育相談に役立つ行動療法・認知行動療法の技法について理解する。		
家族療法・ブリーフセラピー(教科書pp.40-42)		1
ポイント:教育相談に役立つ短期療法の知恵について理解する。		
教育アセスメント(教科書pp.90-109)		1
ポイント:教育アセスメントは、面接・観察・テストからなることを踏まえた上で、学校でよく使われる心理テストについて理解する。		
発達障害(教科書pp.69-78)		1
ポイント:発達障害の特性について理解し、その特性に合った働きかけを考える。		
心の問題(教科書pp.79-88)		1
ポイント:心の問題について理解することで、早期に医療との連携を必要とする判断力を身につける。		
不登校(教科書pp.112-124)		1
ポイント:不登校児童生徒の理解を深めるとともに、基本的な対応について理解する。		
非行(教科書pp.126-139)		1
ポイント:非行少年の理解を深めるとともに、基本的な対応について理解する。		
学級崩壊(教科書pp.140-148)		1
ポイント:学級崩壊の現状の深めるとともに、基本的な対応について理解する。		

いじめ(教科書pp.149-162) ポイント:いじめのメカニズムの理解を深めるとともに、いじめ・いじめられ・観衆・傍観者・保護者への基本的な対応について理解する。	1
保護者に対する支援(教科書pp.163-174) ポイント:保護者との関係を作る上での留意点について理解する。	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科4年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース4年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [     ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	この科目では、学生自身の現場実習の具体的な体験や援助活動を振り返り、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。実践事例の報告と検討、総括を行い、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	一般社団法人日本社会福祉士養成校協会(監修)『社会福祉士 相談援助実習』中央法規	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	実習終了後からの流れを理解する。【福祉・保育実習の手引き】	1
	「実習のまとめ」を作成 実習終了後、実習全体を通して学んだ内容を整理する。	1
	社会福祉専門職についての理解 実習先機関・施設で行われる各種手続きについてまとめる。	1
	社会福祉専門職についての理解 実習先機関・施設における相談援助業務についてまとめる。	1
	社会福祉専門職についての理解 実習先機関・施設で行われている行事等の実施過程についてまとめる。	1
	職種間連携についての理解 実習先機関・施設における各部門職種とその機能・関係についてまとめる。	1
	実習先機関・施設の社会的連携についての理解 実習先機関・施設と社会資源・関係機関との連携についてまとめる。	1
	専門職の倫理綱領と実践についての理解 実習先機関・施設での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる。	1
	ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める 自分の家族背景、交友関係等から、どのような価値観をもつようになったか、この価値観が援助にどのように反映するか考察する。	1
	実習評価の理解(教科書pp.289 -307) 評価内容について理解し、自己評価を行う。	1
	実習後の学習課題(教科書pp. 309 -318) 目標と結果の照合、今後の課題について明確化する。	1
	実践事例の報告と検討 担当した事例(事業)についての報告と意見交換。	1
	実習の全体総括(教科書pp.323-329) 実習報告会の意義と形態について理解する。	1
	「実習報告書」の草稿を事前に作成する。【福祉・保育実習の手引き】 「実習施設の概要」、「私の学び(事例)」、「実習のまとめ」を整理する。個人情報に留意すること。	1

「実習報告書」を作成する。 スクーリング中の指導や実習の振り返りを具体的に反映させて作成すること。	1
	計 15
	授業単位数 1

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅵ	
担当教員の実務経験		
対象学生	社会福祉学科4年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース4年	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [     ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	<p>相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。</p> <p>実習体験を通じた事例検討及びケース報告書の作成・発表等を通して実習の成果を振り返る。</p>	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（監修）『社会福祉士 相談援助演習』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
治療モデルの理解と実践 治療モデルを理解し、事例を通じて実践に必要な知識と技術を学ぶ。		1
環境モデルの理解と実践 環境モデルを理解し、事例を通じて実践に必要な知識と技術を学ぶ。		1
生活モデルの理解と実践 生活モデルを理解し、事例を通じて実践に必要な知識と技術を学ぶ。		1
ストレングスモデルを用いた相談援助実践 ストレングスモデルの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。		1
心理社会的アプローチを用いた相談援助実践 心理社会的アプローチの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。		1
機能的アプローチを用いた相談援助実践 機能的アプローチの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。		1
問題解決アプローチを用いた相談援助実践 問題解決アプローチの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。		1
危機介入アプローチを用いた相談援助実践 危機介入アプローチの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。		1
行動変容アプローチを用いた相談援助実践 行動変容アプローチの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。		1
エンパワメントアプローチを用いた相談援助実践 エンパワメントアプローチの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。		1
家族システム論を用いた相談援助実践 家族システム論の主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。		1
ケースマネジメントに関する相談援助実践 ケースマネジメントの主要概念を理解し、事例を通じて理解を深める。		1
事例研究・事例分析に関する理解(1) 事例研究の目的と意義について理解を深める。		1

事例研究・事例分析に関する理解(2) 事例研究の方法と留意点について理解する。	1
事例研究・事例分析に関する理解(3) 実習事例を用いて、事例研究・事例分析を実践的に行い、相談援助技術の一般化を図る。	1
	計 15
	授業単位数 1

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	精神保健福祉援助演習Ⅲ	
担当教員の実務経験		
対象学生	社会福祉学科4年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース4年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [     ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、精神保健福祉援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。実習体験をもとに理論と実践を結びつけることが本科目の目的である。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』へるす出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
ソーシャルワーク理論の理解を深める① 心理社会的アプローチ		1
ソーシャルワーク理論の理解を深める② ストレングスアプローチ		1
ソーシャルワーク理論の理解を深める③ エンパワメントアプローチ		1
ソーシャルワーク理論の理解を深める④ 危機介入アプローチ		1
ソーシャルワーク理論の理解を深める⑤ 問題解決アプローチ		1
ソーシャルワーク理論の理解を深める⑥ 行動変容アプローチ		1
ソーシャルワーク理論の理解を深める⑦ 家族システムアプローチ		1
ソーシャルワーク理論の理解を深める⑧ ナラティブアプローチ		1
ソーシャルワーク理論の理解を深める⑨ リカバリーモデル		1
ソーシャルワーク理論の理解を深める⑩ SST／心理教育を用いたリハビリテーション		1
事例研究と理論の結合 ① 実習中の体験を事例として振り返る		1
事例研究と理論の結合 ② 事例から自身が学んだことを考察する		1
事例研究と理論の結合 ③ 体験した事例をソーシャルワーク理論と結合し理解する		1

事例研究と理論の結合 ④ 理論と実践の統合について学んだことを振り返る	1
自己覚知について 事例を作成・考察・評価するにあたり、自分自身の思考の過程や感情の発露なども併記し実習体験が自身にどのような影響を与えたかについても考察・分析する	1
	計 15
	授業単位数 1

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科4年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース4年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [     ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	<p>実習を経験した学生として、その実習で得た経験を有効に活用できるよう、事例をもとに、理論と実践のインテグレート(結合)が行えるようにする。事例の中で、相談援助対象者は異なる個性の持ち主のほずであり、その人権を尊重しつつ問題解決する方法を検討していく。問題解決技術を援助対象者のみではなく、その家族との人間関係、それも含む社会適応にも応用できるようにする。援助活動の適・不適、社会資源の有無、福祉専門職の実習生としての自分を常に評価する方法(自己覚知)を身につけ、その結果を次の課程に適用できるように学修する。</p>	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『精神保健福祉士養成セミナー第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版	
授業上の注意点		
<b>授業計画 (内容)</b>		<b>コマ数</b>
事後学修の具体的展開 実習記録を読む。精神保健福祉の現場において学んだ体験や、直接精神障害者とかかわった体験から、実習全体を振り返り、実習体験の内容を思い出す。	1	
事後学修の具体的展開 実習を振り返り中間と学び合う。実習において、どのような体験をしたのか、何を得たのか、何を課題と感じたのかなどを仲間と話し合う。相互に体験を振り返り、実習の経験や場面について多面的に考え、自己覚知を深める。	1	
事後学修の具体的展開 自己評価と学習課題を明確化する。実習現場における自らの態度や行動を自己点検・自己評価することで、対人援助職としての自己理解を深めることができる。実習で得たことは何か、実習でやり残したことは何かなどを確認する。	1	
実習の評価の意味と方法 実習評価の意味・視点・方法について理解する。実習評価では、事前学習により立てた計画が、実習体験により達成できたかどうか、スーパービジョンを受け、どのように成長したのかなどを中心的に評価する。	1	
実習評価の意味と方法 評価項目とポイントについて学ぶ。専門性の要素として、態度、理解(知識)、行動(技能)をどれだけ身につけることができたのかなどがポイントになる。	1	
課題の整理と総括レポート 実習の成果をまとめる。実習全体の総括をしていく上で、体験の言語化と意識化、その内容を記録化していく作業をしながら、学修課題を整理する。	1	
実習報告会および実習報告集 実習報告書を作成する。実習において体験したことを意識化して、精神保健福祉士としての知識と技術、価値に照らし合わせて認識し、体験を客観的に記録する。	1	
実習評価の意義と目的 実習においてとれた学びを振り返る。精神保健福祉士として自分自身の今後の学習の課題や、将来精神保健福祉士として働いていく上で問題点などを整理する。	1	
実習評価の内容と方法 精神保健福祉士としての習得すべき知識・技術の習得度を確認する。精神障害の概念、精神疾患が生活に及ぼす影響、精神障害者が利用できる社会資源、現代社会における家族や地域社会等に関する知識、面接技術、集団援助技術などの習得度について確認する。	1	
実習評価の内容と方法 精神保健福祉士として具備すべき価値の習得度を確認する。倫理綱領を踏まえ、基本的人権や権利擁護に関する認識、クライアントの自己決定の尊重に関する視点や秘密保持義務についての認識などについて確認する。	1	
実習評価の内容と方法 社会人としてもつべき態度・学生としての態度について振り返る。専門職である以前に社会人として求められる行動や、真摯に学ぶ態度について考える。	1	

<p>実習評価の内容と方法</p> <p>実習目標に対する到達度を評価する。実習においては、到達度評価を軸に、学習プロセスの途中で、実習目標の達成状況や学習の進行状況に関するフィードバックを行う形成的評価を組み合わせで行う。</p>	1
<p>実習の各課程における評価</p> <p>実習前・現場実習・事後指導の各過程において評価する。実習指導は、実習前、実習中、実習後にわたって行われる。各ステージにおける評価とその活用を通して、実習体験は経験値として昇華されることを理解する。</p>	1
<p>実習評価の種類</p> <p>自己評価し、自己覚知・自己理解を深める。自らの関心、行動パターン、自己概念、他人が自分をどう見ているのか等を振り返る。自分自身の態度や感情の傾向に気づくこと、クライアントと一定の距離概念を維持し、境界性を意識することが求められる。</p>	1
<p>実習評価の種類</p> <p>実習指導者・実習担当教員・精神障害当事者による評価を振り返る。実習現場において、実習指導者や実習担当教員からの評価だけでなく、精神障害当事者の率直な「声」による評価も参考にする。</p>	1
	計 15
	授業単位数 1

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	国家試験対策（専門科目(精神)Ⅱ)	
担当教員の実務経験		
対象学生	社会福祉学科4年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース4年	
授業時間数・単位数	30 コマ	・ 2 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	専門Ⅱに引き続き、精神保健福祉士としての活動に必要な知識についての総合的な学習を通して、その基礎的理解を深めるとともに、社会資源その他のネットワークを概観する。	
授業の到達目標	精神保健福祉士国家試験合格目標点を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	各自、授業中の課題を振り返る。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「精神専門科目 受験ワークブック」 中央法規「精神保健福祉士国家試験 過去問解説集」	
授業上の注意点	各科目終了後にもう一度各授業中に行った課題を振り返る。	
授業計画（内容）		コマ数
1.精神疾患総論、精神疾患の治療、精神科医療機関の治療構造及び専門病棟		1
2.精神科治療における人権擁護、精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割		1
3.精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性		1
4.精神の健康と、精神の健康に関連する要素及び精神保健の概要		1
5.精神保健の視点から見た家族、学校教育、勤労者、現代社会の課題とアプローチ		1
6.精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割		1
7.地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題		1
8.精神保健に関する専門職と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携		1
9.諸外国の精神保健活動の現状及び対策		1
10.精神保健福祉士、社会福祉士の役割と意義		1
11.相談援助の概念と範囲,理念,精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方		1
12.相談援助に係る専門職の概念と範囲		1
13.精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲		2
14.精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容		2
15.精神保健医療福祉の歴史と動向、精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識		2
16.精神科リハビリテーションの概念と構成、精神科リハビリテーションのプロセス		2
17.相談援助の課程及び対象者との援助関係、面接技術、活動の展開		2
18.スーパービジョンとコンサルテーション、地域移行・地域定着支援の対象及び支援体制		2
19.地域を基盤にした相談援助の主体と対象、リハビリテーションの基本的考え方、ケアマネジメント		2
20.地域を基盤にした支援とネットワーキング、地域生活を支援する包括的な支援の意義と展開		2
21.精神保健福祉法とそのサービス、精神障害者に関連する社会保障制度の概要		2
計		30
授業単位数		2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	国家試験対策（専門科目(社会)Ⅱ）	
担当教員の実務経験		
対象学生	社会福祉学科4年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース4年	
授業時間数・単位数	30 コマ	・ 2 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	専門Ⅱに引き続き、社会福祉士としての活動に必要な知識についての総合的な学習を通して、その基礎的理解を深めるとともに、社会資源その他のネットワークを概観する。	
授業の到達目標	社会福祉士国家試験合格点を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	各自、授業中の課題を振り返る。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「社会専門科目 受験ワークブック」 中央法規「社会保健福祉士国家試験 過去問解説集」	
授業上の注意点	各科目終了後にもう一度各授業中に行った課題を振り返る。	
	授業計画（内容）	コマ数
	1.社会調査の基礎	3
	2.相談援助の基盤と専門職	4
	3.相談援助の理論と方法	4
	4.福祉サービスの組織と経営	4
	5.高齢者に対する支援と介護保険制度	4
	6.児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	4
	7.就労支援サービス	3
	8.更生保護制度	4
	計	30
	授業単位数	2

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	国家試験対策（総合演習）	
担当教員の実務経験		
対象学生	社会福祉学科4年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース4年	
授業時間数・単位数	60 コマ	・ 4 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	社会福祉士および精神保健福祉士国家試験合格対策。	
授業の到達目標	過去問・模擬試験演習を通して合格点を目指す。	
成績評価方法と基準	出席状況により総合的に評価する。	
準備学習・時間外学習	各自、授業中の課題を振り返る。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「共通科目 受験ワークブック」 中央法規「福祉士国家試験 過去問解説集」 中央法規「模擬問題集」 ナツメ社「予想問題集」	
授業上の注意点	問題演習を通して苦手科目を意識しながら得点向上に努める。	
授業計画（内容）		コマ数
1.過去問演習		15
2.過去問解説		10
3.模擬問題演習		15
4.模擬問題解説		10
5.苦手科目克服授業		10
	計	60
	授業単位数	4